

B-3

北琉球沖縄語伊平屋方言の動詞・形容詞について¹

CARLINO・Salvatore (一橋大学大学院 / 国立国語研究所)

要旨:

本発表は沖縄語伊平屋方言の動詞・形容詞の体系の記述を目的とする。まず動詞を概観し、そのあとは動詞の内部構造、下位分類、語根の交替、屈折・派生形態論について述べる。存在動詞、コピュラも取り扱う。次は形容詞に移り、形容詞の認定、内部構造、下位分類、屈折について述べる。

1. はじめに

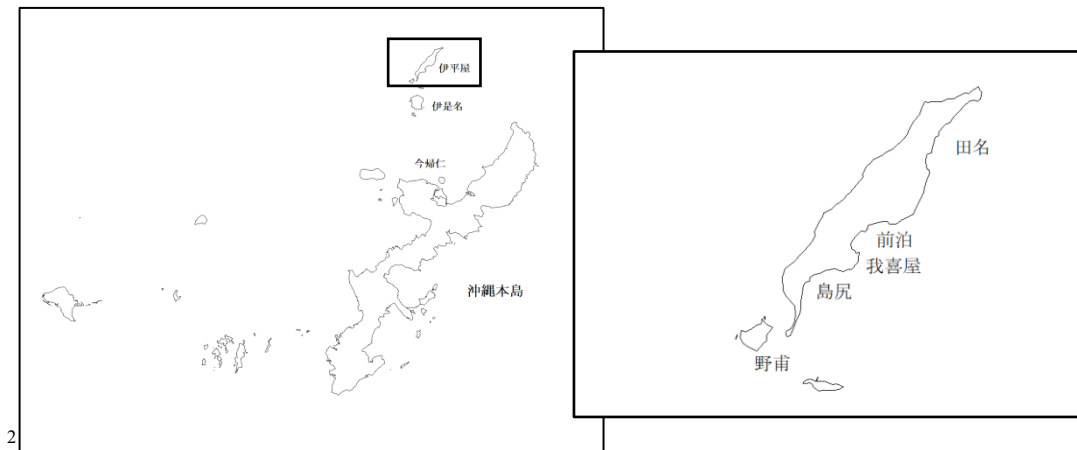


図 1

伊平屋方言は沖縄県伊平屋村で話される言語である。伊平屋村は沖縄本島の北に位置する離島にある村であり、北から田名、前泊、我喜屋、島尻、野甫という 5 つの集落に分かれている。主な産業は水産業と農業である。砂糖黍の栽培、モズクの生産が盛んである。伊平屋村の人口は 1238 人であり、集落間の方言差はほとんどない。伊平屋方言は北琉球諸語・沖縄語の地域変種である。伊平屋方言の流暢な話者は 60 代以上であり、話者人口は 400 人程度であると思われる。本研究で使用しているデータは 2018 年 9 月～2019 年 3 月の間に伊平屋村字田名生まれの男性 3 名(D1 62 歳, D6 61 歳, D7 55 歳)の協力を得てエリシテーションによって収集された。本稿では音素表記を使用する。音素と音声的実現を次のようにまとめられる: a[a], i[i], u[u], (e)[e], (o)[o], m[m], n[n~ɲ~N~m], (p)[p] b[b], , t[t] d[d], , k[k], g[g], ʔ[ʔ], r[r], f[ɸ], , s[s~ɕ], z [(z)~z], h[h], c [tɕ~ts], j[j], w[w]。動詞・形容詞の基底の語根を*で示す。形態素境界は-で示し、=接語境界は=で示す。

2. 先行研究

伊平屋方言の動詞の先行研究として、琉球大学方言研究クラブ (1987, 1989)と崎山・上門 (2016)が挙げられる。これらは動詞の活用を取り上げている。形容詞について琉球大学方言研究クラブ(1975)がある。當山 (2017)は意味を中心にテンス、アスペクト、ムードについて論じている。その他、Carlino(2019)の初期報告がある。しかし、以上の先行研究では動詞・形容詞の内部構造や動詞で見られる語根の交替に関して考察されていない。また、伊平屋方言で使用される多くの接辞の記述が行われていない。

¹ 調査に協力してくださった方々、伊平屋村教育委員会の皆さまに御礼を申し上げる。本研究は以下のプロジェクトの支援を受けた成果である「日本の消滅危機言語・方言の記録とドキュメンテーションの作成」(プロジェクトリーダー 木部暢子)

² 地図は Kenmap を使用して作成 <http://www.5b.biglobe.ne.jp/~t-kamada/>

3. 動詞

動詞は屈折し、述語になる。名詞句の修飾部を埋めることもできる。伊平屋方言の動詞は取る接尾辞によって定形動詞と非定形動詞に分類できる。定形動詞は主節に使用される。一方で、非定形動詞とは従属節に使用される動詞形である。

3.1. 内部構造

動詞の内部構造に触れる。動詞は少なくとも動詞語根と屈折接辞を含まなければならない。屈折接辞にはムードとテンスを表す接辞がある。派生接辞としてヴォイス、アスペクト、否定を表す接辞を挙げる。動詞の語根には語幹形成母音(thematic vowel)がつくことがあるが、詳細は後に述べる。基本的な構造と接辞の順番は以下のように記述できる。

図式 1

語根-	派生接辞-	語幹形成母音-	屈折接辞
	使役-受身-否定-		過去 - 直說法 / 連体接辞
			命令
			禁止
			意志・勧誘
			条件
			継起
			継起
語幹			

3.2. 分類

クラス 1 の動詞は語根が母音で終わる。語幹形成母音が語根につくことがあるが、出沒条件は明らかではない。

1a) are-n

洗う-IND

「洗う」

1b) are-i-n

洗う-THM-IND

「洗う」

1c) are-ta-n

洗う-PST-IND

「洗った」

動詞は 2 つのクラスに分類できる。クラス 2 の動詞の特徴は動詞語根が子音で終わり、原則として活用によって交替する点である。動詞語根に語幹形成母音が接続し、語幹が形成される。

2a) jum-u-n

読む-THM-IND

「読む」

2b) jud-a-n

読む-PST-IND

「読んだ」

クラス別の動詞活用は表 1 で示す。

表 1

クラス 1					クラス 2			
動詞	落ちる	買う	蹴る	食べる	遊ぶ	待つ	泳ぐ	書く
非過去	uti-n	koo-i-n	kii-n	kam-u-n	asib-u-n	mac-u-n	eez-u-n	kac-u-n
否定	uti-ran	koo-ran	kii-ran	kam-an	asib-an	mak-an	eeg-an	kak-an
過去	uti-ta-n	koo-ta-n	kii-ta-n	kad-a-n	asid-a-n	mac-a-n	eez-a-n	kac -a-n

否定過去	uti-ran-ta-n	koo-ran-ta-n	kii-ran-ta-n	kam-an-ta-n	asib-an-ta-n	mak-an-ta-n	eeg-an-ta-n	kak-an-ta-n
受動/可能	uti-rar-i-n	koo-rar-i-n	kii-rar-i-n	kam-ar-i-n	asib-ar-i-n	mak-ar-i-n	eeg-ar-i-n	kak-ar-i-n
使役 ³	uti-ras-u-n	koo-ras-u-n	kii-ras-u-n	kam-af-u-n	asib-af-u-n	mat-af-u-n	eeg-as-u-n	kak-as-u-n
命令	uti-ree	koo-ree	kii-ree	kam-ee	asib-ee	mak-ee	eg-ee	kak-ee

3.3. 語幹形成母音

-u と -i という、特別な意味を持たない、語幹形成のために使用される語幹形成母音(thematic vowel)⁴がある。クラス2動詞は主に-uを使用する。クラス1動詞は必ず-iを使用する。

3a) nu-n / nu-i-n

乗る-IND 乗る-THM-IND

3b) nu-i-mi

乗る-THM-Q

3c) muc-u-n

持つ-THM-IND

3d) muc-u-mi

持つ-THM-Q

3.4. 不規則動詞

*k「来る」, *s/f「する」, -s/f 語根の動詞は不規則な屈折を示す。表 2 ではこれらの動詞の活用を示し、その特徴については以下で述べる。

表 2

	する	来る	s 語根動詞(例 殺す)
非過去	s-u-n / f-u-n	c-u-n	kuruf-u-n / kurus-u-n
否定	h-an	kuun	kuruh-an
過去	sic-a-n	c-an	kuruc-an
否定過去	h-an-ta-n	kun-ta-n	kuruh-an-ta-n
受動・可能	h-ar-i-n	kuu-rar-i-n	kuruh-ar-i-n
使役	simi-n	kuu-raf-u-n	kurusimi-n
命令	h-ee	k-ee	kuruh-ee

「来る」を意味する動詞*cは否定、ヴォイスを表す接辞で不規則的な活用を示す。「する」を意味する動詞は*sと*fという二つの異形を持つ。語根の交替がクラス2動詞に似ているが、過去形は*sic、使役形は*simiという補充形として実現する。-s 語根動詞は-s/f 動詞と関係を持ち、これと同様-f/sという二つの異形が存在する。*s/fと同様、使役では交替して*simiという語根で実現する。

3.5. 語根の交替

クラス2の動詞の特徴は動詞語根の子音が交替する点である。次の表で接続する接辞による交替を示す。

表 3

非過去	過去	否定	命令	継続	受身・可能	使役
∅	-ta	-ran	-ree	-joo	-rar	-ras~raf

³ 使役で-ras/rafという二つの異形が見られるが、これは音声的なバリエーションである。ここは調査時に得た語形のままで記述している。

⁴ 琉球諸語の研究でこの概念を導入した Shimoji (2009) 下地 (2018)を参照

読む	jum	jud	jum	jum	jum	jum	jum
遊ぶ	asib	asid	asib	asib	asib	asib	asib
待つ	mac	mac	mak	mak	mac	mak	mat
書く	kac	kac	kak	kak	kac	kak	kak
泳ぐ	eez	eez	eeg	eeg	eez	eeg	eeg

3.6. 屈折形態論

動詞は、テンスとムードによって屈折する。屈折は接辞の付加によって現れる。以下の表で接辞を概観する。屈折接辞は定形動詞に使用されるものと、非定形動詞に使用されるものに分類される。屈折接辞は表 4 でまとめる。-ta, -ti はクラス 2 の動詞に接続すると、/t/ が削除される。-raa, -rani, rankee, -ree, -ruwa, -roo, -rankwa, -rankoo, -rangutu, -rasimi では/r/ が削除される。-joo では/j/ が削除される。

表 4

定形動詞の接辞				非定形動詞の接辞			
接辞				接辞			
動詞		乗る	読む			乗る	読む
直説法	-n	nu-i-n	jum-u-n	条件1	-ruwa	nu-ruwa	jum-u-wa
過去	-ta	nu-ta-n	jud-a-n	条件2	-roo	nu-roo	jum-oo
過去 2 ⁵	-uta/ita	nu-ita-n	jum-uta-n	状況・理由	-tu	nu-i-tu	jum-u-tu
丁寧	-bi/abi	nu-ibi	jum-abi-n	否定条件	-rankwa	nu-rankwa	jum-ankwa
Y/N 疑問	-mi	nu-i-mi	jum-u-mi	否定条件 2	-rankoo	nu-rankoo	jum-ankoo
Y/N 疑問 2 ⁶	-ti	nu-ti	jud-i	連体	-nu	nu-i-nu	jum-u-nu
内容疑問	-joo	nu-joo	jum-oo	継起	-ee	nu-ee	jum-ee
意思	-raa	nu-raa	jum-aa	継起否定	-rangutu	nu-rangutu	jum-angutu
勧誘	-rani	nu-rani	jum-ani	同時	-gaci	nu-i-gaci	jum-i-gaci
命令	-ree	nu-ree	jum-ee				
禁止	-rankee	nu-rankee	jum-ankee				

3.7 派生形態論

否定⁷、ヴォイス(使役、可能・受動)、アスペクトは派生接辞で表現される。派生接辞の基底形は表 5 のようにまとめられる。-ran⁸, -rar, -ras/raf, -rasimi はクラス 2 の動詞に接続されると、r が削除される。-joo の場合 j が削除される。

表 5

	接辞	クラス1	クラス2
動詞の例		乗る	書く
否定	-ran	nu-ran	kak-an
受動・可能	-rar	nu-rar-i-n	kak-ar-i-n

⁵ 普通の過去と異なり、話し手が目撃した「報告過去」。この場合は前に来る母音と融合したと解説し、普通の過去と区別する。

⁶ 過去の出来事について述べるときに使用される

⁷ 否定接辞は屈折接辞として見られることもあるが、発表者は屈折接辞の前に、つまり派生接辞の埋まるスロットに現れるため、派生接辞とする。

⁸ 非過去否定形では屈折接辞-n は-ran と融合していると解釈する

使役	-ras/raf	nu-ras-u-n	kak-as-u-n
使役 2	-rasimi	nu-rasimi-n	kak-asimi-n
継続	-joo	nu-joo-n	kac-oo-n

13.8. 存在動詞とコピュラ

2 つの存在動詞があり、指す対象の有生性によって使い分けられる。有生物の場合は*u- という存在動詞が使用されるのに対し、無生物の場合は*a が使用される。存在動詞はテンス、ムードで屈折し、*u も *a もクラス1動詞と同様な活用をする。*a の特徴として、否定形では補充形 *nee が使用されることが挙げられる。存在動詞の活用表は表 6 で挙げる

表 6

動詞	ある	いる
非過去	a-n / a-i-n	u-n / u-i-n
否定	nee-n	u-ran
過去	a-ta-n	u-ta-n
否定過去	nee-ta-n	u-ran-ta-n

コピュラは *ja である。*ja はテンス、ムードで屈折し、クラス1動詞と同様な活用を示している。その特徴としては否定形では補充形 *a が使用されることである。否定形では a-ran として実現するが、a-nan という異形も存在する。コピュラの活用は表 7 で挙げる。

4a) wan=ja 私=TOP 「私は男だよ」	ikiga 男	ja-n=doo COP-IND=SFP	4b) wan=ja nan 私=TOP 「私は先生ではない」	sinsii=ja 先生=TOP	a-ran / a- COP-NEG
--------------------------------	------------	-------------------------	--	---------------------	-----------------------

表 7

コピュラ	
非過去	ja-n
否定	a-ran / a-nan
過去	ja-ta-n
否定過去	a-ran-ta-n a-nan-ta-n

4. 形容詞

形容詞は動詞と同様テンスとムードで屈折するが、命令形を取ることができない上、接辞 -sa、副詞接辞 -ku を取るという相違点もあり、動詞とはっきり異なる品詞クラスを成す。

4.1 形容詞の基本構造

形容詞は語根と派生接辞からなる形容詞語幹と屈折接辞からなる。まず語根があり、それに -sa あるいは ha という接辞を取るが、これは形容詞接辞と呼ぶ。sa/ha は単なる音声的なバリエーションである。形容詞の基本的な内部構造は以下で図式化する。

図式 2

形容詞語根	派生接辞	屈折接辞
語幹		

4.2. 形容詞の下位分類

2つのグループに分類できる。グループ A は母音で終わる語根を持ち、グループ B は s で終わる語根を持つ。ほとんどの形容詞はグループ A に所属する。

A グループ形容詞

mii-sa-n 「新しい」 hii-sa-n 「寒い」 aci-sa-n 「暑い」 mucika-sa-n 「難しい」

B グループ形容詞

wassa-n 「悪い」 mussa-n 「面白い」 gassa-n 「軽い」 hissa-n 「薄い」 jassa-n 「安い」

A グループと B グループの違いは副詞形で見られる。副詞形は-ku という派生接辞の接続によって形成される。否定形は-ku と存在動詞の否定形*nec との組み合わせで成立する。軽動詞を取るとき、動詞を修飾するためにも-ku 形式が使用される。

- | | |
|--|---|
| 5a) taka-sa-n
高い-ADJ-IND
「高い」 | 5b) taka-ku nec-n
高い-ADV ない-IND
「高くない」 |
| 5c) ikera-sa-n
少ない-ADV-IND
「少ない」 | 5d) ikera-ku s-u-n
少ない-ADJ-IND する-THM-IND
「少なくする」 |
| 5e) magi-sa-n
大きい-ADJ-IND
「大きい」 | 5f) magi-ku na-i-n
大きい-ADV なる-THM-IND
「大きくなる」 |

A グループの形容詞の副詞形では形容詞接辞の sa/ha は接辞-ku に置き換えられる。B グループの形容詞では接辞の-ku は-sa の後に接続する。B グループの形容詞の-sa は語根の一部として扱ってもよい状態に変化したと解釈できる。

- | | |
|-------------------------------|---|
| 6a) wassa-n
悪い-IND
「悪い」 | 6b) wassa-ku nec-n +
悪い-ADV ない-IND
「悪くない」 |
|-------------------------------|---|

4.3. 形容詞の活用

形容詞はテンス、ムードで屈折する。

表 8

形容詞	高い	悪い
非過去	taka-sa-n	wassa-n
否定	taka-ku nec-n	wassa-ku nec-n
過去	taka-sa-ta-n	wassa-ta-n
否定過去	taka-ku nec-ta-n	wassa-ku nec-ta-n
連体	taka-sa-nu	was-sa-nu
疑問	taka-sa-mi	was-sa-mi

5. まとめ

本発表では伊平屋方言の動詞・形容詞の体系の記述を行った。動詞を 2 つのグループに分類し、子音終わりの語根と母音終わりの語根に分けて記述し、その活用で見られる相違を示した。形容詞も振る舞いによって2つのグループに分類して、その振る舞いの相違を見せた。

参考文献 ウェブ資料

崎山拓真・上門莉緒(2017)「伊平屋田名方言の動詞の活用」『文化庁委託事業報告書下危機的な状況にある言語・方言のアーカイブ化を想定した実地調査研究』琉球大学国際沖縄研究所。下地理則(2018)『南琉球宮古語伊良部島方言』(シリーズ記述文法)くろしお出版。當山奈那(2017)『伊平屋島島尻方言のアスペクト・テンス・モダリティ』国際琉球沖縄論集 (6) 37-52. 琉大方言研究クラブ編 (1975)『伊平屋村我喜屋方言の形容詞』琉大方言研究クラブ。琉大方言研究クラブ 編(1987)『伊平屋村田名方言』琉大方言研究クラブ。琉大方言研究クラブ 編(1989)『伊平屋方言の第三中止形』琉大方言研究クラブ。横山晶子(2017)『琉球沖永良部島国頭方言の文法』一橋大学審査学位論文。博士論文。Carlino, Salvatore (2019) “Verbs and adjectives in Iheya Okinawan” The NINJAL-SGRL-UHM Linguistics Workshop: Grammatical Descriptions of Endangered and Understudied Languages and Dialects in East Asia and Beyond 2019 年 1 月 12 Shimoji, Michinori. 2008. *A Grammar of Irabu: A Southern Ryukyuan Language*. Unpublished. PhD dissertation. 伊平屋村概要 2018 年 09 月 26 日 アクセス <http://www.vill.iheya.okinawa.jp/detail.jsp?id=11803&menuid=4014&funcid=1> 総務省統計局『平成 27 年国勢調査』2018 年 09 月 26 日アクセス. <http://www.stat.go.jp/data/kokusei/2015/kekka/zuhyou/jinsoku0102.xls> Kenmap <http://www5b.biglobe.ne.jp/~t-kamada/>

略号・訳

ADJ 形容詞接辞 ADV 副詞接辞 IND 直説法 NEG 否定形 PST 過去 THM 語幹形成母音 TOP 主題 COP コピュラ Q 疑問 SFP 終助詞